

受験シーズンに拾う 校長 三輪 秀文

この時期になると、3年生の面接練習が始まります。もちろんそれは、受験に向けたトレーニングなのですが、授業も部活動も持っていない面接官役の私には、生徒たちの世界を知るまたとない機会となっています。私は、いまその面接練習にはまっています。

極力本番に近い雰囲気をつくろうとする私を、隣で教頭先生や学年の先生方が支えてくれます。本番さながらの雰囲気に、入り口の「失礼します。」の第一声から、否応なく緊張は高まります。だれ一人いい加減に構える生徒はいません。その緊張から生徒たちのひたむきさや誠実さが伝わってくるのです。そして、その緊張場面からは、日頃の素顔とは違った生徒の一面が見えてきます。それもまた、その生徒の素顔であることには変わりはないでしょう。

応える内容も大切でしょうが、応え方に人柄が表れるのも事実です。そういうところを大事にしたいと思って面接練習に臨んでいます。そつなく、上手に応えることだけがいいとは思っていません。

「本校を選んだ理由を教えてください。」との定番の質問に、よどみなく「貴校を選んだ理由は…」と応える生徒も、努力の跡が伝わってきて立派です。一方、緊張のあまりに言葉を噛んでしまって、「失礼しました。」と改まって言い直す生徒にも、誠意のこもった心が感じられて立派に思えてきます。

また、「あなたの好きな言葉を教えてください。」とか、「生きていく上で最も大切にしなければならないことは何だと思えますか？」との思いがけないような質問に、目を泳がせながら、戸惑いながらも、懸命に応えようとする子どもの姿にも、一生懸命さや人柄がにじみ出ていて、好感を抱いてしまいます。好きな言葉の質問に「一石二鳥です。」「なんとかなるさです。」などの思いがけない言葉が返ってくると、思わず笑えそうになることもありますが、それもその生徒にとっては、自らの体験が導き出した意味のある貴重な言葉なのでしょう、きっと。面接試験の回答としては不適切なようにも思えますが、何かしら真実があるように思えてならないのです。なぜなら「なんとかなるさです。」と応えた子どもに、「どうしてその言葉が好きなのですか？」とさらに尋ねてみると、「私が落ち込んだ時に、友達から、その言葉で励まされてきたからです。」と、ちゃんとした真実が返ってきて感動します。生身の人間同士の温かさや友情物語が伝わってくるようで、場の緊張感を保つようにしながらも、心の中で思わず微笑んでしまっている私です。実は、常識を越えたような思いも寄らない回答のほうが、不思議と面接官の心に残ってしまうものなのです。



それから、子どもたちは意外と社会派なのにも驚かされます。「あなたが最近、関心を持つ

たり、気になったりしたニュースはありますか？」との問いに、「消費税が上がるというニュースです。」や、「イタリアで豪華客船が座礁し、そのときの船長と沿岸警備隊長のやりとりに関心を持ちました。」などの回答に感心させられます。ちなみに、去年のこの質問に一番登場したのは、タイガーマスクこと「伊達直人」でした。

ついつい3年生の面接練習に、はまり込んでしまっている私です。くせになって、4月には、新入生全員を対象に面接をしてみようかと考えてしまっている私でもあります。